

解答① 【地震・津波編】

Q1 地震が発生した後に、続けて発生する地震を何といいますか？

答え：② 余震

- 「余震」とは、大きな地震の後に、その近くで発生する多数の地震です。大きな地震が発生すると、建物が傾いたり土砂災害が発生しやすくなったりしています。その後に発生する余震も普段以上に被害が生じやすくなっているのので、注意が必要です。最初の大きな地震を、「本震」といいます。

Q2 地震の揺れの大きさを表すのは、どれですか？

答え：② 震度

- 震度（しんど）は地震の揺れの大きさを表します。震度は、一般的には震源地（しんげんち）からの距離や地盤の固さに影響を受けます（震源地から近い所では大きくなります。）。平成8年4月から、計測震度計により観測しています（それまでは、体感と周囲の状況から推測していました。）。

Q3 「マグニチュード」は、何を表すものですか？

答え：① 地震の大きさ

- マグニチュードは地震そのものの大きさを表す単位です。数値が大きいほど大規模であり、一般的に、日本ではマグニチュード7以上の地震が大地震とよく呼ばれています。

Q4 「緊急地震速報」について、間違っているのはどれですか？

答え：① 地震の発生直後に、緊急にテレビ、ラジオ放送のみで伝えられる情報

- 「緊急地震速報」は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、直ちに知らせる情報のことで、テレビ、ラジオ、防災行政無線等で放送されたり、携帯電話等でも受信できたりします。強い揺れの前に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、あるいは工場等で機械制御を行うなどの活用がされています。震源から遠い場所では、緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが届くまでに時間がかかるので、揺れが来なくても見聞きしてから1分程度は、身を守るなど警戒をします。



Q5 「津波」の説明で、正しいのはどれですか？

答え：③ 海底の地形の変化で起こる波が「津波」である。

- 「津波」は、海底の地形変動（地震）によって発生します。特徴は、波の長さが普通の波に比べてとても長く、数km～数百kmあります。海域で吹いている風によって生じる波浪は海面付近の現象で、波長は数m～数百m程度です。
「波長」・・・波の山から山、又は谷から谷の長さ

Q6 「津波」について、正しいのはどれですか？

答え：① 津波は、大きな波が一度だけではなく、何度も来ることがある。

- 津波は、1回の波で終わらないで、何度も繰り返し波が来ます。また、初めの波が小さくても、次の波が大きくなることもあるので注意が必要です。津波は、河川をさかのぼってきますので、河川等が氾濫する危険があります。河川にも近づいてはいけません。日本の反対側にあるチリで発生した地震（1960年チリ地震）では、日本を大きな津波が襲い、被害をもたらしました。

Q7 「津波警報」が発表されるとき、予想される津波の高さはどれぐらいですか？

答え：② 1mを超える高さ

- 「大津波警報」「津波警報」が発表されれば、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難します。「津波注意報」が発表されれば、海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れます。

「大津波警報」	・・・予想される津波の高さが高いところで3mを超える。
「津波警報」	・・・予想される津波の高さが高いところで1mを超える。
「津波注意報」	・・・予想される津波の高さが高いところで0.2m～1m以内である。

Q8 海水浴（海岸近く）に来ているときに、「津波注意報」が発表されたらどうしますか？

答え：③ すぐに高台に避難する。

- 津波を確認してから走って避難しても、津波には追いつかれます。また、船やがれき等が流れてきますので危険です。よって、注意報が発表されれば、ただちに海岸から離れて高台に避難します。津波の到達時間は、震源からの距離と海底地形等でそれぞれ違います。

解答② 【地震・津波編】

Q1 家にいるときに、大きな揺れを感じて（大地震が発生して）最初にとる行動として、間違っているのはどれですか？

答え：② とりあえず外に出る。

- まず、机の下に隠れたり、頭を守ったりして身の安全を確保します。火を使っているときは、火災の発生を防ぐため消しますが、揺れが大きいときは、やけどの危険もあるので、揺れが収まってから消火する等、状況判断が必要です。また、避難経路を確保するため、ドアや窓を開けることもありますが、ガラスが割れてけがをする危険もありますので、気を付けましょう。

Q2 Q1の行動をとった後、家に自分以外に誰もいなかったらどうしますか？

答え：③ テレビやラジオ等で情報収集し、避難行動を行う。

- Q1の最初にとる行動の後、揺れが収まったら情報収集等を行って、適切な避難行動を行います。保護者や周囲の人に頼ることなく、自分自身で状況を判断して適切な行動がとれるよう、日頃から家族で災害時の行動を話し合ったり、学校で災害についての知識を身に付けたり、地域の防災訓練に参加しておくことが必要です。

Q3 外出して屋外にいるときに、大きな揺れを感じて最初にとる行動として、間違っているのはどれですか？

答え：② むやみに逃げず、そのままじっと様子を見る。

- 屋外にいるとき、建物の看板や窓ガラスの破片、ベランダに置いてあるプランター等が落ちてくる危険がありますので、建物や塀から離れます。また、交通量の多い道路では、車が突っ込んでくることもあります。頭を守って、広い場所に逃げます。

Q4 海岸にいるときに地震が発生したら、どうしますか？

答え：③ すぐに高台や高い建物に避難する。

- 津波が来るおそれがあるので、すぐに高い場所に避難します。避難したあとは、ラジオやインターネット等で情報を収集し、適切な行動をとります。

Q5 電車に乗っているときに地震が発生したら、どうしますか？

答え：① 手すり、つり革を握る。

- 緊急に停車することがあるので、立っているときは、手すりやつり革をしっかり握って転倒を防ぎます。椅子に座っているときは、低い姿勢をとって頭部をかばん等で保護します。

Q6 エレベーターに乗っているときに地震が発生したら、どうしますか？

答え：① 全ての階のボタンを押す。

- エレベーター内に閉じ込められないように、全ての階のボタンを押し、最初に止まった階ですぐにエレベーターから降ります。

Q7 コンビニやスーパーにいるときに地震が発生したら、どうしますか？

答え：③ 頭を守って安全そうなスペースに移動する。

- 店内では、商品の棚が倒れてきたり、照明器具が落下してきたりして危険です。カバン等で頭を守って、安全な場所に移動します。ただ、慌てて出入り口に向かうと、混雑して危険なこと（周囲の人とぶつかる、こける等）もあります。非常口から避難したり、店員の指示に従ったりするなど、落ち着いて避難行動します。

Q8 入浴しているときに地震が発生したら、どうしますか？

答え：① ドアを開ける。

- 棚に置いている物が落ちてきたり、鏡が落ちて割れたりして危険です。頭を守り、座るか低い姿勢をとります。立っていると滑って危険です。身の安全が確保できたら、閉じ込められないよう、ドアを開けて避難経路を確保します。裸足で避難することになるので、足下に十分気を付けます。浴槽のお湯は、水道が止まることがあるので、流さず貯めておきます。



解答③ 【台風・高潮編】

Q1 台風は、どの方向に渦を巻いていますか？

答え：② 反時計回り

- 台風は、反時計回りに渦を巻いて進むので、台風の進行方向に向かって右側が、より風が強くなり被害が大きくなります。

Q2 台風が近づくと、どのような危険がありますか？

答え：② 土砂災害が発生する。

- 台風が近づくと、大量の雨が降り、土砂崩れや、河川の氾濫等が発生することがあります。土砂災害が発生すれば、家や田畑が壊されたり、道路が通行止めになったりします。また、河川が氾濫すれば、多くの家や道路が浸水します。

Q3 台風が近づいてきたら備えや対策が必要ですが、間違っているのはどれですか？

答え：③ 外の様子がいいつでも確認できるよう、窓を開けておく。

- 断水に備え、飲料水やトイレなどの生活用水を確保するため、浴槽などに水を貯めます。塩害による長期停電のため、懐中電灯やろうそく等の準備や、冷蔵庫の物などが腐る恐れもあるので、水や食料品も備えておきます。また、強い風が吹くと、風や物干しざおなどの物が飛んできて窓ガラスが割れることがあります。雨戸やカーテンを閉めたり、ガムテープで補強したりして対策をします。また、外に出している植木鉢等の物を屋内に取り込むことも必要です。テレビのアンテナや庭木に支柱をして補強することも必要です。

Q4 台風の暴風域では、どのような状況になりますか？

※「暴風域」とは、風速 25m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲のことです。

答え：③ 何かにつかまっていないと立ってられなくなる。

- 「秒速 25m」とは「時速 90km」です。この速さは、高速道路を走っている車と同じ速さです。何かにつかまっていないと立ってられないし、飛んできた物があたって負傷することもあります。



Q5 日頃からできる台風への対策について、間違っているのはどれですか？

答え：③ 日頃から外出や旅行を控えておく。

→ 側溝や排水口にゴミや泥があると、水がつまってしまい、道路に水があふれてしまいます。また、日頃から、家族で災害時の連絡方法や家族が落ちあう場所等を話し合ったり、地域の危険な場所をハザードマップ等で確認したりしておく必要があります。災害時には、避難行動や救助、避難所生活等で地域の人々と力を合わせて取り組むことが大切ですので、日頃から地域の人々とコミュニケーションをしっかりとっておくことも必要です。

Q6 台風が近づくと、海水面が異常に上昇します。これを何といいますか？

答え：① 高潮

→ 高潮は、台風や発達した低気圧などに伴い、気圧が下がり海面が吸い上げられたり、強風で海水が海岸に吹き寄せられたりして、海面が異常に上昇する現象です。台風や発達した低気圧の接近、上陸に伴って短時間のうちに急激に潮位が上昇し、海水が海岸堤防等を越えると一気に浸水します。また高波が加わるとさらに浸水の危険が増します。台風が接近すると、暴風、激しい雨、波しぶきで避難所へ移動することが困難になりますので、台風情報や高潮警報を確認し、安全に行動できるうちに避難することが大切です。津波は、海底下で発生した地震により、海水全体が持ち上がったたり下がったりすることによってできる波です。

Q7 台風などの風によって波が高くなるときに発表される警報は、何ですか？

答え：② 波浪警報

→ 海上で台風等の風により波が発生・発達します。その場所で吹いている風によってできる波を「風浪」といい、個々の波は不規則で波面がとがっています。また、遠くの台風で作られた波が伝わってきたものを「うねり」といい、波面が滑らかで規則的な波長をもっています。これら二つを合わせて「波浪」といい、これにより重大な災害が起こるおそれのある時に波浪警報が発表されます。

Q8 天気予報等と言われる「海がしける」とは、波の高さが何mのときですか？

答え：① 4m～6m

→ 強風のため海上が荒れることを一般的に「しけ」と言います。天気予報用語では波の高さが4mを超えるときを「しけ」と言います。また、6m～9mを「大しけ」、9mを超えるときを「猛烈にしける」と表現します。

解答④ 【大雨・土砂災害編】

Q1 山口県で、「土砂災害」が発生する主な原因は何ですか？

答え：③ 大雨

- 土砂災害の多くは、大雨などのたくさんの水によって地盤がゆるむことが大きな原因で発生します。1時間に20mm以上、又は降り始めてから100mm以上の雨量になったら土砂災害が発生する危険があります（ただ、先行降雨などで地盤が緩んでいる場合は、少ない雨量でも土砂災害は発生します。）。土砂災害は、「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」の三つに大きく分けられます。土砂災害には、前触れが見られることが多いので、前触れを見つけたら、周囲の大人や消防、警察等に知らせて、ただちに避難します。

Q2 がけ崩れが発生する前触れは、どんな状態ですか？

答え：② 小石がばらばら落ちてくる。

がけ崩れ (前触れ)	雨で地中にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちるもの 「がけからの水が濁る。」、「がけに亀裂が入る。」、「小石がばらばら落ちてくる。」等
土石流 (前触れ)	大量の土・石・砂などが、集中豪雨などの大量の水と混じり合っ て、津波のように流れ出てくるもの 山鳴りや立木の避ける音、石のぶつかりあう音が聞こえる。川の水が急に濁り、流木がまじりはじめる。
地すべり (前触れ)	粘土などのすべりやすい層を境に、その地面全体がズルズル動き出すもの 「地面にひび割れができる。」、「斜面から水が噴き出す。」、「家や壁に亀裂が入る。」等

Q3 「土砂災害警戒情報」について、正しいのはどれですか？

答え：① 大雨が降っている中で、土砂災害の発生の危険が更に高まってきたときに出される情報

- 大雨警報が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が更に高まったときに、気象庁等から発表されます。自分の住んでいる市町に、「土砂災害警戒情報」が発表されたら、土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域等に住んでいる人は、詳しい情報収集を行うとともに、早めの避難が必要です。

Q4 狭い範囲で短い時間に大雨が降ったときに、次の中で最も危険な場所はどこですか？

答え：① 小さい川や用水路の近く

- 小さい川や用水路などは、大きな河川と違って水位の上昇がとても速く、氾濫するまでの時間が短いため、警報や自治体からの避難指示が間にあわないこともあります。

Q5 自分の住んでいる地域に「大雨警報」が発表中ですが、家の近くでは全く雨は降っていません。どのような行動をとることが望ましいですか？

答え：② 川上で大雨になっている可能性があるため、注意は必要である。

→ 川上で大雨が降っていたら急に増水して危険です。今後、大雨になる危険性もあるので、ニュースやネット等で雨の状況等、情報収集をしておきます。

Q6 「1時間当たりの雨量が20mm～30mm」とは、どのような状況ですか？

答え：③ どしゃぶりで、用水路があふれたり、がけ崩れが発生したりする危険がある。

< 1時間当たりの雨量 >

10mm～20mm	[やや強い雨]	ザーザー降る雨 地面からの跳ね返りで足下が濡れる。雨音で話が聞こえないことがある。
20mm～30mm	[強い雨]	どしゃ降り 傘をさしても濡れる。小さい川等が氾濫する。
30mm～50mm	[激しい雨]	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。
50mm～80mm	[非常に激しい雨]	滝のように降る雨 車の運転は危険。土石流がおこりやすい。
80mm～	[猛烈な雨]	恐怖を感じる。大規模災害の発生する恐れがある。

参考：http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_ura.png

Q7 「記録的短時間大雨情報」とは、どんな情報ですか？

答え：① 現在、数年に1度程度しか発生しないような大雨が降っていることを知らせる情報

→ 「記録的短時間大雨情報」は、「大雨警報」が出されているときに、短時間に猛烈な大雨を観測した場合に出されます。この情報が発表されたときは、避難情報に留意し、早めに避難に心がけます。山口県では、1時間に100mm以上の雨を観測したときに発表されます。

Q8 「大雨特別警報」が発表されたら、どうしたらよいですか？

答え：② 災害等が発生していれば、より安全な場所に避難する。

→ 数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、重大な災害が発生する心配がとて高い場合に発表されます。特別警報が発表されれば、ただちに命を守る行動をとらなくてはなりません。避難場所等への避難が遅れ、危険が伴う場合は無理して避難場所に移動せず、自宅や隣接建物の2階などへ避難（垂直避難）します。



解答⑤ 【火災編】

Q1 火災が発生して最初にとる行動として、間違っているのはどれですか？

答え：③ 消防隊が来るまで、火事を見ておく。

- 火が小さいときは、水をかけたり、消火器を使ったりして消火活動を行います。しかし、一人だけの消火活動にこだわらず、周囲に火災を知らせ、大勢で協力して消火活動を行います。火災が発生すれば、自分ができることを行うことが大切です。

Q2 消火器の正しい使用方法是どれですか？

答え：① 安全ピンを抜く→ ホースを火元に向ける
→ レバーを握る



- 火災のときは、誰でも慌てますので、日頃から消火器の使用方法や消火訓練等を行う必要があります。また、消火器は初期消火に使うものなので、炎が天井に届いたり、天井に燃え移ったりしたときは、消火はできないと判断し、消火活動を中止して避難します。

Q3 火災を発見したら、どの番号に電話をかけますか？

答え：③ 119番

- 119番は、火災が発生し消防車を呼びたいときや、救急車を呼びたいときの緊急通報電話番号です。110番は、警察通報電話で事件・事故を見かけた時に警察に連絡する電話番号です。118番は、海上での事件・事故の緊急通報用電話番号です。

Q4 住宅内で火災警報器が鳴ったら、どうしますか？

答え：② 火元を確認し、避難したあと119番通報する。

- 火元を確認し、火災が発生していたら、まず安全に避難します。大声で火事であることを周囲に知らせるとともに、安全な場所から119番通報します。初期消火が可能なときは消火活動を行います。危険を感じたらただちに避難します。初期消火の限界は天井に火が燃え移るまでです。天井に燃え移りそうになったらすぐに避難します。

Q5 デパート、旅館、ホテル等で火災が発生したときの避難方法として、正しいのはどれですか？

答え：① 階段で避難する。

- 非常階段等を利用して避難します。デパートや、旅館、ホテル等に行ったときは、まず非常口や避難経路を確認しておくことが大切です。また、パニックが起こることも予想されるので、落ち着いて行動し、従業員等の情報や指示も、しっかり聞くように心がけます。

Q6 火災の煙の広がり方として、正しいのはどれですか？

答え：① 煙はまず上に上がってから、横に広がっていく。

- 火災によって発生した煙は、その熱によって空気より軽くなり、まず上昇を始めます。その後、天井などに突き当たると今度は横方向に広がります。煙は、上には1秒間に3～5m進み、横には1秒間に0.5m～1m進みます。横方向には人間の歩く速度と同じスピードで進みますが、上方向にはそれよりずっと早く進みます。

Q7 火災で煙に巻かれたら、どのように避難しますか？

答え：③ 姿勢を低くし、床に近づいて逃げる。

- 床に近いところは煙が薄いので、できるだけ低い姿勢で逃げます。そのとき、ハンカチやぬれタオル等で口をふさぎ、煙を吸わないようにします。煙には、有毒ガス（一酸化炭素）を多く含んでいるため、吸い込むと危険です。

Q8 服に火がついた場合、どのように行動すればよいですか？

答え：② 地面に転がる。

- 走り回って火を消そうとしても、火は逆に拡大します。水をかけて消火するか、腹や背中であれば転げ回って消火するか、消火器で消火します。



解答⑥ 【竜巻・雷編】

Q1 竜巻が発生する前触れは、どれですか？

答え：③ 急にひんやりとした冷たい風が吹き出す。

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。積乱雲が接近すると、低く黒い雲が近づき周囲が暗くなったり、雷鳴や雷光が見えたり、急に冷たい風が吹いたりします。短時間で狭い範囲に集中して猛烈な風が吹き、大きな被害をもたらします。

Q2 竜巻が襲ってきたら、どうなりますか？

答え：② いろいろな物が、ものすごいスピードで飛んでくる。

- 竜巻が近づくと、猛烈な風が吹き、いろいろな物が飛ばされます。飛んできた物が壁に突き刺さったり、窓ガラスが割れたりします。建物が壊されたり、車がひっくり返ることもあります。

Q3 「竜巻注意情報」が発表されたら、どのように行動すればよいですか？

答え：② 空の様子に注意し、積乱雲が近づく兆しを感じたら避難する。

- 空の様子をみて、黒い雲が近づき周囲が急に暗くなったり、冷たい風が吹いたり、大粒の雨や「ひょう」が降り出したりすると、発達した積乱雲が近づく兆しです。ただちに頑丈な建物内の安全な場所に逃げる等、身の安全を確保します。特に、竜巻注意情報が発表されてから約1時間は注意が必要です。

Q4 外で遊んでいるときに（外出しているときに）竜巻が見えたら、どのように行動すればよいですか？

答え：① すぐに建物に避難し、窓から離れる。

- 物が飛んできて、窓や壁を突き破ってくる危険があるので、頑丈な建物に避難し、建物の一階で中心部に近い部屋に移動し、机の下等の丈夫な物の陰に入り、両腕で頭と首を守ります。窓ガラスが割れて危険ですから、窓ガラスに近づかないようにします。



Q5 教室で竜巻が見えたときにとる行動として、間違っているのはどれですか？

答え：① すぐにグラウンドに避難する。

- 机を集め、シェルターをつくります。窓ガラスが割れて被害が出ることを予防するため、窓にカギをかけてカーテンを閉めます。カバン等で頭、首を守り、床に座って竜巻の接近に備えます。

Q6 どんなときに、雷が発生しますか？

答え：③ 真っ黒い雲が近づいてきたとき

- 雷雨やにわか雨は、積乱雲が発達して起こります。発達した積乱雲が近づいてきたら、黒い雲が近づき周囲が暗くなったり、雷の音が聞こえてきたり、急に冷たい風が吹いてきたりします。

Q7 自宅にいるときに、雷が近くで鳴りました。どのように行動すればよいですか？

答え：② 電化製品のコンセントを抜く。

- 電気は壁を伝わってくるので、壁や窓の近くは感電する可能性があります。窓はしっかりと閉めて、壁や天井から1 m以上離れます。また、テレビのアンテナや電線などから雷の電流が入ってくることもあるので、テレビやパソコンなどのコンセントをできるだけ抜いて、電化製品から2 m以上離れます。

Q8 外にいるときに、雷が鳴りました。雷から身を守るために、どのように行動すればよいですか？

答え：① 建物や車の中に移動する。

- できるだけ頑丈な建物の中に避難するようにします。周囲に建物がない場合は、車や電車に避難するのが安全です。木や電柱の近くは危険です。少なくとも木や電柱から4 m以上は離れます。建物や車、電車等が近くにないときは、姿勢を低くします。また、海水浴に行っているときは、雷が鳴ったら海からすぐに上がります。水は電気を通すので、雷が海に落ちた場合、海に入っていると感電することがあるからです。



解答⑦ 【防災一般編】

Q1 「特別警報」の説明で、正しいのはどれですか？

答え：③ 数十年に一度しかないような非常に危険な災害が発生し
そうなときに出される警報

→ 平成25年8月30日から運用が始まりました。特別警報が出た場合、その地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や市町から発表される「避難指示・避難勧告」などの情報により、ただちに命を守るための行動をとります。

Q2 市や町が作成している「ハザードマップ」とは、どんなものですか？

答え：② 被害想定区域や避難場所等が表示してある地図

→ 「ハザードマップ」は、自然災害による被害を予測し、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などが表示してある地図です。災害時の適切な避難で活用したり、二次災害等を軽減するのにとても有効です。

Q3 災害の被害の危険が予想されるときに発表される「避難指示」、「避難勧告」、「避難準備情報」のうち、危険が一番迫っているのはどれですか？

答え：① 避難指示

避難指示

被害の危険が切迫したときに発せられるもので、「勧告」より拘束力が強くなります。ただし、指示に従わなかった人に対して、強制までは行いません。

避難勧告

居住者に立ち退きを勧め促すものです。避難を強制するものではありません。

避難準備情報

事態の推移によっては避難勧告や避難指示を行うことが予想されるため、避難の準備を呼びかけるものです。

Q4 災害時に避難をするときは、どのような服装がよいですか？

答え：③ 長袖の上着や防災ずきんを着用

→ 頭を保護するものを着用し、長袖・長ズボンで避難します（安全第一ですので、災害状況で変わります。）。

Q5 避難するときの履き物は、どれがよいですか？

答え：① はき慣れた運動靴（スニーカー）

- 裸足やサンダルだと、ガラスや破片やがれき等でのけが、やけど等の危険があります。また、長靴だと、水が入ったとき動きにくくなりますので、はき慣れた運動靴（スニーカー）で避難します。

Q6 災害が発生したときに、お互いの安否を確認する際に活用できる「災害用伝言ダイヤル」の番号はどれですか？

答え：② 171番

- 災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。171番は「忘れていない（171）」と覚えておきます。



Q7 非常持ち出し品を入れるのに、一番よい入れ物はどれですか？

答え：③ 背中に背負うことができるリュックサック

- 非常持ち出し品は、必要最小限のものを準備します。避難するときは、動きやすいよう、また両手が使えるように背中に背負うことができるリュックサックが望ましいです。

Q8 避難するとき心がける約束事は、その頭文字をとって、何といいますか？

答え：② おはしも

- 「おはしも」は、お「押さない」、は「走らない」、し「しゃべらない」、も「戻らない」の頭文字をとったものです。いざという時に、焦らず冷静に行動・判断ができるよう、日頃から災害に対する備えをしておきます。
「いかのおすし」は、子どもを犯罪被害に巻き込まれないための防犯標語で、いか「行かない」、の「乗らない」、お「大声で叫ぶ」、す「すぐ逃げる」
し「知らせる」の頭文字をとったものです。